

# 秋水・空技廠 関連年表



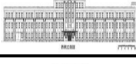














は「秋水関連」








は「空技廠関連」

連	西暦	元号	日付	秋水 / 空技廠 / 海軍工廠 関連年表	横須賀市史 その他
1	1853	嘉永6	6月3日		(新暦7月8日) ペリー艦隊浦賀に来航
2	1865	慶応元	1月	横須賀製鉄所鋳入れ式挙行(フランソワ・レオンス・ヴェルニー、小栗上野介)	
3	1871	明治4	2月	横須賀製鉄所船渠完成	
4	1876	明治9	6月	日本海軍初の国産軍艦「清輝」897トン720馬力完成	
5	1877	明治10	10月		深浦 西南の役傷病兵伝染病 日向に避難病院 無縁墓地建立
6	1878	明治11	7月		三浦半島全域「三浦郡」となる
7	1884	明治17	12月	楠ヶ浦 横須賀鎮守府設立 海軍造船所となる	
8	1887	明治20	5月	伊藤博文 夏島に別荘を営む	
9	1887	明治20	6月	海軍造船所 鉄鋼艦「愛宕」621トン進水	
10	1889	明治22		陸軍夏島砲台完成 24センチ迫撃砲10門	
11	1889	明治22	6月		大日本帝国憲法発布 横須賀線開通
12	1894	明治27	3月	海軍造船所 三等巡洋艦「秋津洲」3189トン 完成	
13	1894	明治27	7月		日清戦争 至1895年4月
14	1903	明治36	6月	横須賀製鉄所は横須賀海軍工廠となる 海軍工廠条例(横須賀・呉・佐世保・舞鶴)	
15	1904	明治37	2月6日		日露戦争 至1905年9月5日
16	1906	明治39	11月15日	横須賀工廠 日本海軍初の戦艦「薩摩」19,350トン進水	
17	1907	明治40	2月17日		横須賀町市制施行
18	1909	明治42	7月31日	臨時軍用気球研究会設置	
19	1910	明治43	10月15日	横須賀工廠 ドレッドノート級一番艦 戦艦「河内」21,832トン進水	
20	1911	明治44	4月5日		アンリファルマン機が所沢飛行場で日本初の動力飛行成功
21	1912	大正元年	6月26日	海軍航空術研究委員会設置	
22	1912	大正元年	10月5日	海軍追浜飛行場を建設	
23	1912	大正元年	10月23日	フランスからファルマン水上機2機が到着	
24	1912	大正元年	10月31日	アメリカからカーチス水上機2機が到着	
25	1912	大正元年	11月12日		横浜の観艦式に河野・金子両大尉が飛行参加
26	1912	大正元年	11月21日	横須賀工廠 巡洋戦艦「比叡」29,000トン進水 新設ガントリクレーン使用	
27	1913	大正2	7月	横須賀工廠造兵部ファルマン水上改造機を制作	
28	1913	大正2		夏島砲台を廃止	
29	1914	大正3	1月24日	横須賀工廠造兵部に飛行機工場を設置	
30	1914	大正3	9月4日		青島戦ではじめて航空作戦が行われる
31	1915	大正4	10月	横須賀工廠造兵部 ロ号甲型水上機完成	
32	1915	大正4	11月3日	横須賀工廠 超ド級戦艦「山城」36,000トン進水(巨艦国内建造に自信)	
33	1916	大正5	1月	横須賀工廠造兵部 横敞式ホ号乙型水上機完成	
34	1916	大正5	4月1日	横須賀海軍航空隊設置(海軍航空技術研究会は解散)	
35	1918	大正7	4月1日	横須賀航空隊に気球隊を設置(航空機研究は築地に)	
36	1918	大正7	6月	追浜・夏島埋め立て開始(飛行場造成・烏帽子岩切り崩)	
37	1920	大正9	4月28日	横須賀航空隊内に「航空船隊」発足	
38	1920	大正9	5月31日	横須賀工廠 戦艦「陸奥」進水	
39	1920	大正9	7月		第四三議会 加藤友三郎海軍大臣『八・八艦隊』の予算可決
40	1921	大正10	11月		ワシントン条約 日・米・英・仏・伊 トン数米英5に対し日は3 航空母艦の保有量は81,000トンに制限される
41	1922	大正11	1月21日		航空機を(飛行機)(航空船)(気球)の三種と定める
42	1922	大正11	5月	横須賀工廠造兵部 英国製航空船の組立・試験飛行	
43	1922	大正11	8月	横須賀航空隊 F5飛行艇の日本一周飛行を実施	
44	1922	大正11	11月1日		霞ヶ浦海軍航空隊設置
45	1923	大正12	4月1日	海軍技術研究所設立	
46	1923	大正12	9月1日		関東大震災
47	1925	大正14	5月24日	横須賀航空隊 13式艦攻で横須賀-北京間往復飛行	
48	1926	大正15	3月	追浜陸上飛行場完成	
49	1926	大正15		田浦トンネル完成 昭和3年に国道31号(現16号)追浜～逸見開通 トンネル7カ所	
50	1927	昭和2	3月25日		呉工廠 巡洋戦艦「赤城」26,900トン空母として再生完成
51	1927	昭和2	4月2日	海軍航空本部設置	
52	1927	昭和2	4月16日	横須賀工廠 重巡洋艦「妙高」10,000トン進水	
53	1928	昭和3	3月29日		(航空船)を(飛行船)と改める
54	1928	昭和3	3月31日	横須賀工廠 戦艦加賀を空母「加賀」26,900トンとして再生	「赤城」「加賀」「サラトガ」「レキシントン」ビッグ4と呼ばれる
55	1930	昭和5	1月		ロンドン条約 補助艦全体の保有量と重巡の隻数制限

56	1930	昭和5	4月			湘南電鉄 黄金町～浦賀開通
57	1930	昭和5	6月		横須賀海軍航空予科練習部設置 (昭和14年6月霞ヶ浦へ移転)	
58	1931	昭和6			この頃より陸軍科学研究所がロケット研究を開始	
59	1931	昭和6	4月18日		横須賀工廠 ロンドン条約を原因とし大規模人員整理	
60	1931	昭和6			この頃 巡洋戦艦「榛名」「金剛」が近代化改装を完了	
61	1931	昭和6年				中島飛行機(株)設立以降陸海軍の航空機生産
62	1931	昭和6				満州事変
63	1932	昭和7	4月1日		海軍航空隊を横須賀に設置する 96式艦上戦闘機 航空機専用91式魚雷開発など	
64	1932	昭和7	5月31日		横須賀工廠 重巡洋艦「高雄」9,850トン完成 重量軽減のため特殊高張力鋼や電気溶接の採用	
65	1933	昭和8	4月1日			田浦町、横須賀市に合併
66	1934	昭和9	12月			日本ワシントン条約破棄を通告 ロンドン会議
67	1937	昭和12				米国 海軍大拡張計画策定 日本 第四次海軍軍備充実計画
68	1937	昭和12	7月7日			北京市外蘆溝橋付近で日中軍衝突 日華事変
69	1937	昭和12	12月29日			空母「蒼龍」完成
70	1939	昭和14	4月1日		海軍航空隊を「海軍航空技術隊」に改称	
71	1939	昭和14	7月5日		横須賀工廠 中型空母「飛龍」15,900トン完成 真珠湾作戦で第2航空戦隊の旗艦	
72	1940	昭和15	5月4日		横須賀工廠に第六ドック完成 (L=336m,W=48m,D=13m) 100t,60tクレーン設置	
73	1940	昭和15	7月21日		横須賀航空隊 12試艦戦試作(後の零戦)12機漢口へ実戦投入される	
74	1940	昭和15	7月24日		十二試艦戦 零式艦上戦闘機11型として制式採用	
75	1941	昭和16	3月		海軍航空隊令一部改正 支隊を金沢に開設	
76	1941	昭和16	8月8日		横須賀工廠 大型空母「翔鶴」25,675トン完成 吃水球状艦首(バルバス・バウ)を採用	
77	1941	昭和16	8～9月		真珠湾奇襲作戦を念頭に「浅深度魚雷」が開発され、投下実験が繰り返される。 深度10.5m 100%を達成する。	
78	1941	昭和16	12月8日			日本海軍が真珠湾に航空攻撃(宣戦の詔書)事実上の米英との開戦
79	1941	昭和16	12月16日			呉工廠 戦艦「大和」65,000トン完成 連合艦隊旗艦となる
80	1942	昭和17			昭和15～17 横須賀工廠 「瑞鳳」「祥鳳」「龍鳳」12,000-13,000トンクラスの軽空母完成	
81	1942	昭和17	1月		空技廠発動機部にジェット推進法を専門に研究する研究二科が設置される。	
82	1942	昭和17	4月18日			米空母ホーネットから発信したドーリットル指揮の陸軍B25爆撃機が日本空襲(横須賀にも飛来)
83	1942	昭和17	5月8日			珊瑚海海戦 初の空母機動戦
84	1942	昭和17	6月5日			ミッドウェー海戦 4空母「加賀」「蒼龍」「飛龍」「赤城」を失う
85	1942	昭和17	6月		航空技術隊でY-20 (双発陸爆一銀河)1号機完成	
86	1942	昭和17	9月		超高空用特大型排気ガスタービン過給器「YT15型」完成 試作ジェットエンジン「TR10」開発に着手	
87	1942	昭和17	11月1日		横須賀航空隊整備練習部が発展的解隊され「追浜航空隊」となる	
88	1942	昭和17			横須賀工廠 大型潜水艦「伊15型」2,230トンを完成 以後44年まで多くの潜水艦を造る	
89	1943	昭和18	9月		航空技術隊で前翼式滑空機(後の震電)試作機完成	
90	1943	昭和18	11月		KMX(「三式一号探知機」 敵潜水艦の磁気を探知し警報を発するとともに目標弾を発射し潜水艦の位置を味方駆逐艦に知らせる)開発成功。	
91	1944	昭和19	3月		零戦52型 甲・乙が完成	
92	1944	昭和19			横須賀海軍航空隊 零戦を含む280機の海軍最大部隊配備	
93	1944	昭和19	3月31日		「秋水」吉川春夫技術中佐 技術資料を携えU-1224潜水艦でキール軍港出港	
94	1944	昭和19	4月16日		「秋水」巖谷栄一技術中佐 技術資料を携え「伊」号29潜水艦でロリアン軍港出港	
95	1944	昭和19	6月16日		「秋水」資料搬送のU-1224潜水艦 爆雷攻撃を受け消息を絶つ	
96	1944	昭和19	6月16日			中国大陸漢口より長駆 B-29 20機が北九州工業地帯爆撃
97	1944	昭和19	6月		横須賀工廠 海軍特殊潜航艇「海龍」試作機建造	
98	1944	昭和19	7月6日			サイパン島日本軍守備隊全滅
99	1944	昭和19	7月28日			児童疎開を県議会議決(浦郷→海老名村等)

100	1944	昭和19	7月20日		「秋水」航空技術廠にて噴進飛行機開発に関する陸・海・民間合同会議 ロケットエンジンは陸軍主導で三菱発動機研究所担当、ロケット戦闘機は海軍主導で三菱航空機設計・製作と決まる 「一九試局地戦闘機」と呼ばれる	
101	1944	昭和19	8月～		「空技廠」で特攻機「桜花」の試作開始 10月23日相模湾上で一式陸攻からの投下試験	
102	1944	昭和19	7月29日		「秋水」三菱重工名古屋発動機研究所 ロケットエンジン開発開始	
103	1944	昭和19	8月10日		「秋水」大村海軍航空隊元山分遣隊16名の少尉に「Me163に充つ」の命令下る	
104	1944	昭和19	8月20日		「秋水」16名の少尉達横須賀海軍航空隊に着任 高圧タンク・緊急脱出訓練など開始	
105	1944	昭和19	10月		「秋水」16名の少尉達百里原航空隊に移動 自らを『秋水隊』と命名 通常局地戦闘機は「紫電」「雷電」「月光」など電光に関する名前が付けられるが、「秋水」は岡野少尉が名刀秋水にちなみ『秋水一閃驕敵を切る』と発言したことより名前が決まったという	
106	1944	昭和19	10月～		「秋水」秋水隊は九三中練(九三式中間練習機)などを用いて滑空定着の訓練	
107	1944	昭和19	10月～		「秋水」の飛行場について、(1)B29の空襲侵入コース (2)数百機の「秋水」が離着陸する面積 (3)大量の燃料薬液貯蔵のことを考慮して柏か厚木が候補地として検討	
108	1944	昭和19	10月～		「秋水」犬塚豊彦大尉 第一分隊長として着任 百里原の「秋水隊」に合流	
109	1944	昭和19	10月20日			艦上戦闘機26機にて『神風特別攻撃隊』を編成(フィリピン島クラーク基地) 敷島隊、大和隊、朝日隊、山桜隊 以降フィリピン作戦において突入した攻撃機は200機以上を数える
110	1944	昭和19	11月19日		横須賀工廠 空母「信濃」62,000トン完成 「信濃」は戦艦武蔵に次ぐ大和型三番艦であり横須賀工廠で起工予定であったが、ミッドウェー海戦での空母喪失を受けて、洋上の航空基地とすべく急遽、「空母」への改造が決まった。	
111	1944	昭和19	11月20日		航空技術廠 「桜花」11型の噴射実験	
112	1944	昭和19	11月29日			空母「信濃」呉に回航中に米潜水艦により潮岬沖で沈没
113	1944	昭和19	11月			マリアナ基地からB29東京初空襲 横須賀も空襲を受ける
114	1944	昭和19	12月20日		「秋水」滑空定着訓練用重滑空機を追浜飛行場へ輸送 夏島地下壕に格納	
115	1944	昭和19	12月26日		「秋水」滑空定着訓練用 軽滑空機「秋草」百里原基地にて犬塚豊彦大尉試験飛行 「天山」11型艦上攻撃機が曳航 上空1,000mで離脱	
116	1944	昭和19	12月26日		「秋水」航空技術廠 三菱航空機製作 秋水の訓練用重滑空機完成 構造は実機と同様 重量は1トンを超える 軽滑空機と同時開発していた	
117	1944	昭和19	12月		海軍航空技術廠 「試製橘花計画要求書(案)」規定	
118	1945	昭和20	1月8日		「秋水」滑空定着訓練用 重滑空機 百里原基地に移送後、軽滑空機と同様犬塚豊彦大尉試験飛行 「天山」12型艦上攻撃機が曳航 上空1,500mで離脱	
119	1945	昭和20	1月19日		「秋水」航空技術廠にて「秋水」特呂2号エンジン全力運転成功	
120	1945	昭和20	2月5日		「秋水」横須賀海軍航空隊百里原派遣隊は第312海軍航空隊(サン・ヒト・フタ・クウ)となり横須賀鎮守府の所	
121	1945	昭和20	2月15日		航空技術廠『第一海軍技術廠(一技廠)』に改名 海軍航空本部を『第二海軍技術廠』とした	
122	1945	昭和20	2月17日			延べ600機のグラマン・コルセア・アベンチャーなどが関東地区に飛来。陸海軍合わせて迎撃。多数を撃墜。紫電改の戦闘能力の強さを実証した。
123	1945	昭和20	3月12日		「秋水」第1号機三菱航空機大江工場より追浜に向け輸送	
124	1945	昭和20	3月		桜花を兵器に採用し『桜花11型』とする	
125	1945	昭和20	4月18日			横須賀に米艦載機初空襲
126	1945	昭和20	5月		空技廠兵器部にてアメリカに先駆け30mm機銃開発成功。制式採用。日本特殊鋼協力。「震電」「秋水」「烈風」等に搭載予定も終戦。	
127	1945	昭和20	5月27日		十八試陸上偵察機『景雲(R2Y1)』木更津にて試験飛行	
128	1945	昭和20	4～6月		第一海軍技術廠 特攻機「橘花」ネ20ジェットエンジン開発	
129	1945	昭和20	6月12日～		「秋水」6月12日山北実験場にて第1号機用エンジン全力運転、同15日松本実験場にて第2号機用エンジン全力運転、27日夏島にて1/2号機エンジン領収、2号機用エンジンは柏基地に輸送	

130	1945	昭和20	6月		中島飛行機 特攻機「橘花」用ジェットエンジン「ネ20」出	
131	1945	昭和20	7月5日		「秋水」夏島岸壁にて第1号機用エンジンの実機搭載 運転実施	
132	1945	昭和20	7月7日		「秋水」16時55分追浜飛行場より試験飛行に発進 推定高度500mでエンジンが停止 惰性で上昇反転 滞空時間40秒 海上に燃料投棄し帰還するが着陸に失 敗 犬塚豊彦大尉殉職	
133	1945	昭和20	7月10日			米艦載機横須賀空襲 18日に再空襲 汐入国 民学校・八幡山市立工業学校が被弾
134	1945	昭和20	7月		「橘花」を主務とした724航空隊が横須賀海軍航空隊の 横穴で編成作業開始	
135	1945	昭和20	7月14日			三浦半島武山基地・房総半島に桜花発射台設 置を開始
136	1945	昭和20	7月18日			横須賀空襲 汐入国民学校等被弾
137	1945	昭和20	8月4日			B29エノラ・ゲイ号 広島に原子爆弾投下 現 在も被爆死者あり
138	1945	昭和20	8月7日			ジェット推進特攻機「橘花」 木更津飛行場にて 試験飛行成功
139	1945	昭和20	8月9日			B29 再び長崎に原子爆弾を投下 7万4千人 が死亡
140	1945	昭和20	8月15日			終戦の日 ポツダム宣言受諾通告(終戦の大詔録音放送) 第二次世界大戦終結
141	1945	昭和20	8月30日		連合軍 艦載機は追浜飛行場に飛来 海兵団は軍艦よ り上陸用舟艇で小海岸壁へ上陸	
142	1945	昭和20	11月頃		追浜飛行場に集められた日本陸海軍機が 米海軍空母 バーズに積み込まれアメリカへ輸送される	
143	1946	昭和21	11月3日			日本国憲法発布
144	1947	昭和22	9月			追浜地区旧軍施設の一部米軍接收から解放 旧軍転用工場が追浜会を結成
145	1949	昭和24	10月			米軍より旧海軍航空技術廠地区約10万坪が 日本政府に返還される
146	1950	昭和25	6月			朝鮮戦争勃発 旧軍港市転換法公布
147	1950	昭和25	6月			夏島貝塚発掘調査 夏島式土器は国内最古
148	1950	昭和25	7月			逗子市 横須賀市より分離し市制施行
149	1950	昭和25	9月			横須賀市議会 追浜地区再接収反対の陳情
150	1950	昭和25				朝鮮戦争、GHQの指示でポツダム政令により 「警察予備隊」発足 総理府の機関となる
151	1951	昭和26	9月8日			サンフランシスコで連合国との平和条約と日米 安全保障条約締結
152	1952	昭和27	4月26日			海上保安庁海上警備隊発足に伴い横須賀地 方監部が設置される。8月1日:保安庁警備隊 発足に伴い横須賀地方隊が編成され横須賀地 方総監部が設置される
153	1952	昭和27	7月			米陸軍追浜兵器廠設置 転換工場17社再接 自衛隊法の制定により陸上・海上・航空の三つ の自衛隊が成立し 統合幕僚会議設置
154	1954	昭和29	7月1日			防衛大学校が横須賀市走水に開校(従前は 「保安大学校」として仮校舎)
155	1955	昭和30年	4月1日			米陸軍追浜兵器廠が閉鎖
156	1959	昭和34	6月			
157	1961	昭和36	6月		「秋水」横浜市日本飛行機杉田工場の敷地改修工事 途中 地中より「秋水」の残骸発見	
158	1961	昭和36				日産自動車(株)他45社追浜夏島地区に進出
159	1972	昭和47				夏島貝塚 国の文化財(史跡)に指定
160	1975	昭和50				明治憲法草案記念碑 夏島貝塚入口に移設
161	1980	昭和55	11月29日			防衛庁設置法等の改正により従来の海上自衛 隊潜水艦部隊を統合 船越基地に潜水艦隊司 令部が設置され第1潜水隊群が呉基地に第2 潜水隊群が横須賀基地に配備された
162	1982	昭和57	1月			日産自動車(株)地先埋め立て完成 烏帽子岩 の碑移設
163	1982	昭和57	7月			海洋技術センター(現・独立行政法人海洋研究 開発機構)地先埋め立て完成
164	1983	昭和58				横須賀市 貝山緑地開設
165	1983	昭和58	5月			日産自動車(株)追浜専用埠頭完成
166	2001	平成13			「秋水」三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所 史料室 秋水復元モデル公開	
167	2002	平成14	8月30日		「秋水」特呂2号ロケットエンジンの外観復元完了 同 史料室にて公開	
168	2006	平成18				自衛隊統合幕僚会議は統合幕僚監部となり統 合幕僚長が統括することとなった。

